

いしかわ版

# 里山づくり ISO



## ポスター交流会

～いしかわ版里山づくりISO取組紹介～

平成31年3月14日（木）

ポスター展示：13:00～17:00

ポスターセッション：13:00～13:30  
14:30～15:00



石川県地場産業振興センター 本館3階 第5研修室



＜ 目 次 ＞

●里山里海の資源活用と環境教育	・・・	2
[No.30] NPO法人いしかわ農林水産サポートネット)		
●「ホクコクの森」づくり	・・・	3
[No.34] 株式会社ホクコク地水		
●人や自然を愛し、感動をわかちあい、夢を語ろう	・・・	4
[No.37] 夕日寺自然体験実行委員会（ゆめのたね）		
●河北潟の生物多様性を守ろう	・・・	5
[No.65] NPO法人河北潟湖沼研究所		
●エコー、行こう、笑顔、癒しの森	・・・	6
[No.88] NPO法人世界の砂漠を緑で包む会		
●朱鷺が舞う能登の里 粟津をめざして	・・・	7
～ドジョウを増やす取り組みを支えるお米の販売へのチャレンジ～		
[No.118] 粟津村おこし推進協議会		
●「のとてまり」栽培を通して里山の魅力と可能性を探る活動	・・・	8
[No.152] 石川県立穴水高等学校		
●里山里海を育む人の和	・・・	9
[No.154] 田岸里山里海倶楽部		
●縄文時代から続くウルシの森と日本の文化である漆芸文化を次の世代に受け継ぎたい	・・・	10
[No.263] 輪島漆「集いの森」		
●きらめ樹間伐・自然米・海岸清掃と子ども恵みの里づくり	・・・	11～16
[No.290] 万葉の里山づくり友の会		

## 里山里海の資源活用と環境教育

千田昌昭 (NPO 法人いしかわ農林水産サポートネット)

### 目的と目標

平成 21 年に設立した当法人は、農林水産物等の生産やその利活用の支援、環境と調和のとれた里山里海の保全、農山漁村地域が持つ多面的機能の維持と発揮、県民への理解促進に寄与することを目的として活動しています。

### 1. 里海の大切さと環境教育

#### (1) 「海と魚の先生」活動

里山里海景観創出プロジェクトとして、毎年、海岸清掃活動等を実施している Dハウス工業 (KK) は、参加した子供達の楽しみも兼ねて「海とさかな」の知識を学ぶ地引網を行うことにした。温暖化・里山対策室から依頼を受け、海とさかなの先生として当会員が講師となり、海の豊かさ・大切さを話すとともに、獲れた魚の種類や名前等を説明し、里海の大切さについて理解促進を図りました。



写真1 獲れた魚の仕分けと種類・名前の説明

#### (2) 伝統漁法の授業

穴水町の「新崎・志ヶ浦地区里海里山推進協議会」は、里海の再生活動の一環として、平成 25 年に、モニュメントではなく最初からボラ漁を意図した「ボラ待ちやぐら」を建てました。これまで子供達を招待した見学会を開催してきましたが、今年は穴水小学校で二百年前から食べられているボラ茶漬けを紹介するとともに、伝統漁法の授業を行い、人と海の関係の大切さについての理解促進を図りました。



写真2 実際に漁ができる「ボラ待ちやぐら」

### 2. 地域食材の保存と活用による里山活性化支援

白山麓で古くから栽培されている「もちわさび」(ねばりが強く色がやや白っぽい)の種の保存・活用を図るため、大学の専門家を講師に招いて、もちわさびの採種・増殖の仕方を確認し、今春の就農予定者を核に支援していくことにしています。(参考:栽培わさびは、島根3号、ふじだるま、真妻の3系統、在来はもちわさび、三鷹の2品種に大きく分類され、三鷹は地域をあげて保存と活用に力を入れている)



写真3 「もちわさび」の生育と栽培状況の確認

氏名	野島重典・千田昌昭・高山高市	所属	NPO 法人いしかわ農林水産サポートネット
住所	〒920-3198 石川県金沢市才田町戊 295-1 石川県農林総合研究センター内		
電話	080-2952-4640	FAX	076-257-6844
E-mail	s-nobata@pref.ishikawa.lg.jp		



## 「ホクコクの森」づくり

高畠葵（株式会社ホクコク地水）

### 主な活動

株式会社ホクコク地水では、津幡町にある石川県森林公園内の0.3haの土地を「ホクコクの森」と名付け、主に草刈り・支柱建て・溝掘り・植樹などの森林整備活動をしています。この活動は、2010年5月にスタートして以来、今年で10回目を迎えます。前はコナラなど17本の木を新たに植えました。この土地はとて水はけが悪く、木が育つには難しい環境です。根腐れを起こして木が枯れてしまわないように、排水路を造り、水はけを良くしています。また、背の高さ以上の雑草が生い茂るため草刈りが欠かせません。年を重ねるごとに、どうしたらより良い環境を整えることができるかを模索し、改良を続けています。2011年には「いしかわ版里山づくりISO」の認証を受け、県と協力しながら里山の保全に取り組んできました。

### 主な参加者

我社の社員はもちろんのこと、その家族も参加しており、老若男女問わず、毎年130人ほどで森林整備活動を行っています。

### 今後の課題

ここ数十年、世界では森林が急速に失われています。原因の一つに、先進国が木材を大量輸入していることが挙げられます。私たちの住んでいる日本は、世界最大の木材輸入国でもあるのです。微力ながら私たちにできることは何かを考え、「はぐくもう豊かな心 育てよう石川の森 ストップ温暖化」をテーマにこの活動を続けてきました。自分たちで森を作ることにより、大人も子供も自然の大切さ・森を作ることの大変さを学ぶことができます。我社は、環境保全活動を通じて社会に貢献するために、これからもこの活動を続けていきます。



所属	株式会社ホクコク地水		
住所	〒921-8021 石川県金沢市御影町25番1号		
電話	076-241-7158	FAX	076-243-2422
HP	<a href="http://www.hokukoku.co.jp/">http://www.hokukoku.co.jp/</a>		

## 人や自然を愛し、感動をわかちあい、夢を語ろう

夕日寺自然体験実行委員会（ゆめのたね）

### 設立の経緯

平成19年4月、いしかわ自然学校インストラクターの有志によって設立し、「夕日寺生きものキッズレンジャー」活動をスタートしました。当会は“ゆめのたね”の愛称で金沢市中心部から一番近い里山である、夕日寺健民自然園をホームグラウンドに、身近な自然にふれあい、小さなお子さんから大人までを対象に自然体験の機会を提供しています。

### 活動の目的

一人ひとりが生物多様性・里山保全の意義について、体験から学び、自ら行動することを促しています。世代を超えて、里山でお互いから学び合い、それぞれが自己肯定感を高められるように、誰かの役にたっていることを実感できることが重要と考えます。ともに学び育ち合いの場を次の世代へつなぎ、笑顔あふれる持続可能な循環型社会を目指しています。

### 活動内容

- ・おさんぽくらぶ♪：四季を通じての親子の自然教室や森の活動で、お母さんの子育てを支援しています。
- ・ちびっこ探検隊：未就学児童が四季を通じて、里山を歩き、自然を肌で感じ楽しむ原体験を積み重ねています。
- ・ゆめのたね☆キッズレンジャー：小学生が里山の自然・里山作業体験を通じて、子どもたちの意欲を育み、好きなことを見つける活動です。
- ・トレジャー倶楽部：「里山も人も元気に！」を合言葉に、健康づくりと認知症予防、仲間づくりを楽しんでいます。
- ・さとやまキャンプ：外国や県外からの大学生と地元石川の小学生が、英語を使って里山保全や自然体験を通じて交流し、理解を深めました。
- ・いしかわ環境フェア・里山里海展にて体験コーナー実施：  
外来種と生物多様性の保全について考えるきっかけとなるアメリカザリガニ釣り体験を行いました。2018年は約200名の親子が参加しました。



氏名	越石あき子	所属	夕日寺自然体験実行委員会（ゆめのたね）
E-mail	info@yhdr.jp	HP	<a href="http://www.yhdr.jp">http://www.yhdr.jp</a>

## 河北潟の生物多様性を守ろう

川原奈苗・高橋久・番匠尚子（NPO法人河北潟湖沼研究所）

### 背景と目的

わたしたちは河北潟の環境改善を願って 1994 年に発足した団体です。河北潟周辺の水辺や農地を調べたところ、ひと昔前にふつうに見られた野生生物が激減していることがわかりました。河北潟の環境を改善するには、湖だけでなくその周辺の環境も重要です。大規模に環境を改変した干拓事業や、戦後急速に普及した農薬だけでなく、近年の変化にも大きな原因があると考えています。田んぼでは広範囲でネオニコチノイド系農薬等の殺虫剤の空中散布、除草剤が使用されており、これらの生態系への影響が懸念されます。

### 「生きもの元気米」誕生

田んぼの元気を見守って農薬を減らす仕組みを考え、「生きもの元気米」は誕生しました。①殺虫剤の空中散布+ネオニコチノイド系農薬を含む浸透性殺虫剤を使用しない。②畦に除草剤を散布しない。この 2 つの条件で農家と契約し、田んぼごとに生きもの調査をして、認証を行っています。



### 田んぼ一枚ごとの調査から

生きもの調査により、田んぼごとに違いがあることがわかりました。比較のために慣行農法の水田でも調査をおこなっていますが、農薬不使用の水田ではバッタ類などサイズの大きい昆虫類が多くみられるのに対し、慣行農法の水田では数ミリ以下のハエ類を主とした昆虫類が多く、益虫となる種群が少ないといった傾向が確認されています。



農薬不使用（左）と慣行農法（右）の水田で採集された虫（2013年7月）

### NPOのビジョン

「生きもの元気米」は、田んぼごとに袋詰めし、田んぼのファンができるよう取り組んでいます。消費者も田んぼの環境を見守る一員となります。生きもの元気米は、色々な応援をいただいて、少しずつ広がっており、平成 30 年産では、9 枚の水田で約 6.5 トンが生産されました。わたしたちの活動のビジョンは、地域に活力を与え続ける「河北潟」の実現です。農薬に頼らない農業が推進され、河北潟の流域全体が健全になることを目指します。

氏名	川原奈苗	所属	NPO法人河北潟湖沼研究所
住所	〒929-0342 石川県河北郡津幡町北中条ナ 9-9		
電話	076-288-5803	FAX	076-255-6941
E-mail	na.na@amail.plala.or.jp	HP	<a href="http://kahokugata.sakura.ne.jp/">http://kahokugata.sakura.ne.jp/</a>



## エコー、行こう、笑顔、癒しの森

森田伸彦（NPO 法人世界の砂漠を緑で包む会）

当会は 1998 年 4 月に中国 ゴビ砂漠の東南部で緑化活動を始めたのがスタートで、名称もそこから付けたものです。

砂嵐・黄砂の発生で、日本でも話題になる世界 4 位の広大な砂漠に小さな苗木を根付かせ、努力を重ねた結果、今では中国政府も本腰を入れ、200kmのグリーンベルト地帯にすべく緑化に拍車がかかっています。昨年からは、エチオピアの荒廃した乾燥地を緑化して、住民が農産物を生産出来るようにするプロジェクトを始めました。今後が楽しみな事業です。

一方、国内では平成 23 年 8 月から、津幡町の「石川県森林公園」内の一部を県と協定を結び整備し、必要に応じた植樹を行う作業をしています。協定上の面積は 14 ヘクタールだが、対応できない場所もあるため、その半分ほどを対象として活動しています。

場所は桜園に隣接する、サイクリングロードの両側となります。笹・葛のつる、枯れた大きな松の木、不用と思われる小木、等々。ジャングル状態の自然林を切り開き、笹は年 2 回程刈払い、3 年程であまり生えなくなりました。その間にモミジ林を創るため、60 本程植え、下刈りを繰り返しました。

さらに、ドングリが実を付け、カブトムシが寄ってくるコナラ・クヌギの外にサクラを植えました。以後毎年、サクラを植えて下刈りを繰り返した為、笹は一部を残して無くなり、春にはスマレ・ササユリが咲くようになり、秋には大きくなったモミジが真っ赤に色づき、とっても綺麗な森になって来ました。是非見に来て下さい。お待ちしております。



下刈り作業



親子で桜を植林

氏名	大沢俊夫（会長）	所属	NPO 法人世界の砂漠を緑で包む会
住所	〒921-8015 石川県金沢市東力 2 丁目 26 番		
電話	090-2833-0038	FAX	076-292-0038
E-mail	tutumkai@vmail.plala.or.jp		

## 朱鷺が舞う能登の里 粟津をめざして ～ドジョウを増やす取り組みを支えるお米の販売へのチャレンジ～

柚木實・松ヶ瀬昌太（粟津村おこし推進協議会）・加藤秀夫・高真由美

### 活動をはじめた背景や目的

粟津村おこし推進協議会は、珠洲市三崎町粟津地区の里山里海を守るため、平成 22 年に設立した地域団体です。手入れ不足によって広がってきた竹林を整備し、耕作放棄地の増加を防ぐための米作りや、美しい海岸線を守り環境保全に努めるなど、農村の風景や環境を維持する取り組みに、力を注いできました。取組を進める中で珠洲市に朱鷺が飛来するようになり、私たちの田んぼにも訪れるようになりました。このことをきっかけに、珠洲市で環境保全に取り組むNPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海と協力し、朱鷺の住める環境づくりに取り組みました。2015 年から 3 年間で、公益信託サントリー世界愛鳥基金の支援を受け「トキの舞う能登の里山里海創出プロジェクト」事業に取り組んできました。特に、朱鷺の好物であるドジョウが、自然に増える環境を作るために、水路の段差の解消や、田んぼにあがるための魚道の設置を進めてきました。2018 年からは米の独自販売に取り組む、売り上げの一部で粟津地区の里山里海を守る活動を継続・発展させていきたいと考えています。



田んぼでドジョウを食べている朱鷺

### 具体的な内容

粟津地区の田んぼと周りの水辺では、ドジョウ、メダカ、トンボ、トノサマガエルなど約 140 種類の水性動物が暮らしています。ドジョウ田は、除草剤不使用、農薬と化学肥料の使用を標準の半分以下に減らして栽培しています。2018 年の検査で米の残留農薬の数値はゼロでした。その他に、荒廃した竹林の整備の際に伐採した竹で灯籠を作り、砂浜に並べて灯りをともす取り組みや、冬のサーフィン大会で景品に米を使用するなど、里山と里海の繋がりを感じられるような活動にも取り組んでいます。



奥能登 粟津のお米

これからも、粟津地区の豊かな自然を守り、環境の維持・保全を続け、里山里海づくりの活動を推進していきます。

氏名	千谷健一	所属	粟津村おこし推進協議会
住所	〒927-1452 石川県珠洲市三崎町粟津壺四部		
電話	0768-88-2168 (担当：角野)	FAX	0768-88-2168 (担当：角野)
E-mail	awadumuraokoshi@gmail.com	HP	<a href="https://awazu-muraokoshi.jimdofree.com/">https://awazu-muraokoshi.jimdofree.com/</a>



## 「のとてまり」栽培を通して里山の魅力と可能性を探る活動

安部愛樹・小林学斗・熊野美月（石川県立穴水高等学校）

### ◎この活動を始めた背景・目的



町有林での植林活動

能登の里山里海が世界農業遺産に認定されたことを受けて、本校では、コナラの植林活動やコナラを利用した原木椎茸の栽培を通じて、主体的に地域の環境保全に取り組もうとする心や、過疎化や高齢化が進む地元に対して地域の活性化に貢献したいという意識を育みたいということからこの活動を始めた。

また、原木椎茸の特秀品「のとてまり」の栽培活動や、「のとてまり」を食材としたレシピ開発など、本校生徒の元気な取り組みについても発信したいという願いもあった。

### ◎活動の内容・実績

この6年間、町が所有する町有林に、コナラ、クヌギ、山桜、山紅葉などを植林してきた。この活動は、県の「こども森の恵み推進事業」より支援を受けた奥能登原木しいたけ活性化協議会との連携事業として始められ、本校も、「魅力ある県立学校づくり推進事業」（H24年度～H26年度）、「ふるさとに学ぶクリエイティブ人材育成事業」（H27年度～）の里山保全活動の一環として継続して行ってきた。

同じ学年の仲間と協力して作業を行う楽しさや、地域の環境保全に貢献しているという誇らしさで、植林活動では毎年生徒の笑顔があふれている。

「のとてまり」は、奥能登原木しいたけ活性化協議会が、奥能登の里山に育つコナラやクヌギの木を使った原木椎茸栽培におけるブランド化をめざして、JAや日本キノコセンターと提携して開発してきた「のと115」品種椎茸の特秀品である。

本校では生産農家や技術指導員のご協力の下、平成24年度より栽培を始め、7年目となる取り組みである。今年は今沢市中央卸売市場での競りにおいて、本校栽培の「のとてまり」8個入り一箱に、過去最高額である11万円の競り値がついた。自分たちが頑張って栽培した「のとてまり」が評価された喜びと、このことが奥能登の原木椎茸栽培農家を元気づけことになるのだという思いから、「自分たちも地域に貢献できた」と誇らしく感じる。

### ◎活動の成果・感想

この活動を通して、地域の職業人の方々から知識や技能を学び、また、地域社会が色々な職種によって成り立っていることを学ぶことができた。

また、生まれ育った「ふるさと」の産業や文化を知ることによって、「ふるさと」への愛着や誇りを深め、地域の可能性を探ることができた。

最後に、本校のこの活動が楽しく安全に行うことができたのは、様々な分野の方々のご指導とご協力によるものであったと強く感じている。これからも、穴水高校は「里山保全活動」と「のとてまり栽培」を継続していきたいと思う。



椎茸ハウスにホダ木を運び込む

#### ◇穴水高校の植林活動の実績

平成25年度	コナラ・山桜・山紅葉	計390本植林
平成26年度	コナラ・山桜・山紅葉	計290本植林
平成27年度	コナラ・山桜・山紅葉	計280本植林
平成28年度	クヌギ・桜(ソメイヨシノ)	計200本植林
平成29年度	クヌギ・山桜・山紅葉	計260本植林
平成30年度	クヌギ・山桜・山紅葉	計190本植林

※ソメイヨシノの植林は、この年の穴水高校の創立70周年記念として



←「のと115」がたっぷり入った「のとてまりキッシュ」

↓ 近江町市場で行われた「のとてまり」PRイベントに販売活動で参加



所属	石川県立穴水高等学校
住所	〒927-0024 石川県鳳珠郡穴水町由比ヶ丘の33番地

## 里山里海を育む人の和

丹崎勝雄（田岸里山里海倶楽部）

### 活動の背景・目的

七尾市の最北に位置する小さな農村集落です。小さくとも活気のある集落を先人たちが育て、培ってきた「田岸」。それを次世代につなぐ者として、風光明媚な自然を活かし、里山里海の保全をキーワードにして、他に誇れる集落にしようと平成24年に「田岸里山里海倶楽部」を組織しました。

町会に住むほぼ全員を会員とし、全員参加型による活動をめざしています。しかしながら、町会内のみでは次世代に継承できない事業もあり、外部の方々との交流・連携も行っています。



海から眺める田岸集落

### 活動内容

古き良き伝統行事にイノベーションを付加し、時代にマッチした内容への充実を図り、新しい風も取り込みながら、各人の得意技を最大限に活かしています。特に、伝統の祭りには大学生達の手も借りています。農地維持などには国の制度を活用しています。

さらには、集落愛の醸成をめざし、海岸清掃、花いっぱい運動、田んぼの上の鯉のぼり、季節のミニ飾り、山林再生などに取り組んでいます。



海岸清掃

### 成果・実績

町会民全員が何らかの行事に参加することで、集落内の状況、課題、目標の理解浸透が進み、さらには、心の豊かさ、安心できる生活環境の維持・向上が図られたと感じています。

強いては、集落愛の醸成が進み、さらに熟度が高まり、人の和が強固になったと感じています。



田んぼの上の鯉のぼり

### ビジョン

「継続は力なり」のごとく、課題は多いですが、その時々々のイノベーションで事業の継続をめざします。

また、外部から新しいアイデアの提案を頂き、町会民の生きがいを創出する「オリジナル商品や事業」など経済活動への発展をめざします。



間伐見学会

氏名	丹崎勝雄	所属	田岸里山里海倶楽部
住所	〒929-2212 石川県七尾市中島町田岸へー12		
電話	0767-66-1647	FAX	0767-66-1647
E-mail	tanzaki@yu.incl.ne.jp		



## 縄文時代から続くウルシの森と日本の文化である漆芸文化を次の世代に受け継ぎたい 塩多朋子（輪島漆「集いの森」）

ウルシや漆器に使う木、集って楽しめる木を実際に育て、楽しみながら、地域振興に貢献する。

### 設立の経緯

2011年、輪島漆再生プロジェクト実行委員会が、勉強会の開催を始め、志のある人々が集まった。現在、国産漆をめぐる状況は厳しく、日本で使われている漆の約98%は中国産漆で、わずか2%が日本産漆という現実がある。輪島では、古代から、ウルシの木を育て、税として納めてきた。また、アテの木等も、奥能登で広く植林されてきたが、これらの環境が、後に、輪島塗という産業を生み出す母体になった。奥能登の里山では、田畑の畔にウルシの木が植えられ、農家や林家の人たちは、「お金になる木」として、ウルシを大切に育ててきた。

しかし、昭和30年代から40年代にかけて、漆掻きの生業が成り立たなくなり、それと共に、ウルシの木も消えていった。日本産漆と中国産漆は、DNAに少し違いがあり、日本産漆の方が、主成分のウルシオールが多く、丈夫で、美しい塗膜の漆器を生み出す事ができる。漆器を作る職人としては、日本産漆を絶滅させたくない、という思いがある。japan 輪島再興実行委員会等の事業で、輪島漆の苗を大量に育てた事がきっかけになり、山を開墾する必要が出てきた。同じ集落内で、耕作放棄状態だった約5676平方メートル（登記上。実際は、2ヘクタール程）の山を借りる事ができたので、最初は夫婦二人で、パイオニアツリー等の伐採をした。この広大な山を借りる事で、ウルシの木だけでなく、資源が枯渇している木工に使う木や、地域振興に資する木も育てたいという夢が広がった。やがて、任意団体を19名でスタートさせた。県の森づくりボランティア推進事業の補助や輪島漆再生プロジェクト実行委員会、社会福祉法人佛子園 輪島kabulet等の支援も受け、伐採、土壌改良、地拵えを会員やボランティアと共に行った。

2017年3月、ウルシの苗約220本、マアテ約12本、えびすケヤキ3本、ケヤキの苗約20本を植えたほか、サクラ、ウメ、カキ、クリ、カリン等の苗木も植えた。また、その他の様々な木も種からコンテナ苗に育て、早いものは2年目の活動で、2018年3月に山に植える事ができた。コナラ、クヌギ、オニグルミ、スダジイ、シラカシ、トチ、ミズメ、イタヤカエデ、ブナ、ムクノキ、ヒノキ、スギ、キリ、ホオノキ、タラノキ等を育てている。「ウルシや漆器の森」を整備した事で、国内や国外から観光客を迎える際、原材料の木を育てている山、それを加工する職人の工房、できあがった漆器や木製品、という漆の里の一連の流れを見せる事ができるようになった。会の活動をブログに投稿し、会員や賛助会員を募った結果、会員は約50名まで増えた。また、ウルシ染めの活動をしている染色家からの支援も受けている。



### 活動内容

ウルシの木から樹液である漆が採取できるようになる約10年後から15年後まで、草刈り等の森の維持管理を継続していく。生産量は少ないが、漆掻きが活動できる場所を作り、ウルシの苗等を育てる技術、漆掻きの技術を次の世代に受け継ぐ事等を着実に行う。2018年度は、果樹が若木に生長したので、剪定の講習会を県の支援を受けながら開く事ができ、地域の人にも楽しんでいただく事ができた。今までウルシしか知らなかったが、様々な木を実際に育てる事で、多くの事を学んでいる。

また、金継ぎ・摺り漆教室も6回開き、初心者には漆の扱い方を教えると同時に、森づくりの大切さを訴え、苗を配布し、育てる事に協力してもらった。来年度以降、木と漆で、林産加工物を作る予定である。いずれ、収穫できた漆で輪島ブランドの漆器を作る事になるが、世界の様々な天然の素材を使った伝統的な工芸の勉強会を重ね、新たな視点で漆器や木工品を作り出したいと思っている。

また、里山振興も目標にしており、フィールドを生かしたイベント等も開催したいと思っている。そして、自然と調和の取れた心の豊かな暮らしを目指したいと思っている。

氏名	塩多朋子	所属	輪島漆「集いの森」
住所	〒928-0014 石川県輪島市山ノ上町ソ部 39 番地		
電話	080-8698-7916	FAX	0768-23-0739
E-mail	shioda@eos.ocn.ne.jp	HP	<a href="http://tsudoinomori.tsudoinomori.link/">http://tsudoinomori.tsudoinomori.link/</a>



## きらめ樹間伐・自然米・海岸清掃と子ども恵みの里づくり

出村光彦（万葉の里山づくり友の会）

### A きらめ樹間伐と子ども恵みの里づくり

#### 1. 概要・活動状況

##### (1) 里山の状態

- ・里山の多くは手入れ（間伐）されないまま、年老いていこうとしています。密植のまま競い合っただばかり伸び、細長く、根張りも小さく、大風、大雨に弱い状態です。このままでは、世代交替も進まず、いつか一斉に倒木してしまう危険をはらんでいます。
- ・陽が差し込みにくく、健全な状態とはいえません。
- ・里山に親しむことが難しく、子供らを連れて行きにくい状況です。



きらめ樹間伐作業前の様子

密植のまま放置され、細長い樹が並んでいる。

##### (2) 森林環境税で道路際の里山整備を！

- ・道路際の里山が整備されれば、私たち一般の人も恩恵を実感できます。景観がよくなり、道路への危険倒木が減少し、イノシシの道路飛び出しも少なくなります。また、子供らも容易に里山と親しめるようになります。

##### (3) 「きらめ樹間伐」で里山健全化活動

- ・H28 年度から、残りの森林環境税3千万円の一部で森づくりボランティア推進事業の助成をいただき、「きらめ樹間伐」（皮むき上げ間伐）を実施しています。チェーンソーでの伐倒は費用を要し、木掛かりになりやすく、危険です。
- ・「きらめ樹間伐」は4～8月に皮をむき上げ、立ち枯れさせます。葉がなくなれば、伐倒しなくても陽が差し込みます。陽が差し込めば、伐倒間伐と同じ効果を生み、里山が健全化していきます。
- ・だれもが手軽に安全に作業でき、森林浴、運動、交流の場になり、里山に親しめます。
- ・この間伐方法は、福井県林業改善指導員の鋸谷茂（おがや しげる）さんが提案した巻き枯らし間伐（環状剥皮）をNPO法人「森の蘇り」の理事長 大西善治（おおにし よしはる）さんが応用したものです。活動をインターネット等で報告し、参加を呼びかけています。

#### ○きらめ樹間伐（皮むき上げ）作業状況等 朱色テープ巻は残す樹



お父さんと保育園児



お父さんと小学2年生



姉妹で 小学5年生と3年生



子供らが里山と親しんでいる様子



お母さん、友だちと一緒に



お父さんと小学生兄弟



小学5年生





きらめ樹間伐（皮むき上げ）作業 朱色テープ巻は残す樹

きらめ樹間伐作業後の状況

### ○きらめ樹材チェンソー伐倒作業状況等



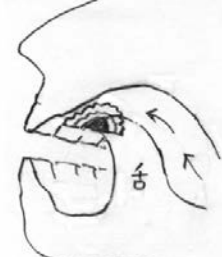
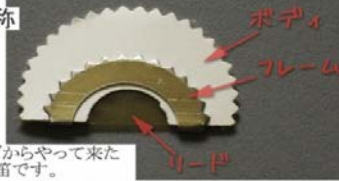
きらめ樹材伐倒の様子



伐倒後の集積固縛状況

### バードホイッスルの鳴らし方 H28.5.21 万葉の里山づくり友の会

各部名称



オランダからやって来た鳥寄せ笛です。  
ボディ.....ここを上歯の裏に押しつけてホイッスルを固定する  
フレーム.....リードをボディに固定している金具  
リード.....透明な薄い膜。これが振動して音が出る

#### 鳴らし方

裏表はありません。透明なリードを前に、ざざざのボディを奥にして、バードホイッスルを舌先に乗せます。1分間ほどバードホイッスルを口の中で湿らせます。（パスツキ感がなくなるまで。）  
「ていていて...」と言ってみてください。舌先が上の歯茎に触るでしょう。ここを邪魔しないように、もう少し奥にバードホイッスルを位置合わせします。  
「ていー」という感じに強く息を吹きます。バードホイッスルと舌の隙間を空気が抜けてリードが振動して、音が出ます。（バードホイッスルの上を空気が抜けると音が出ません。）  
しばらく試していると偶然に音が出るでしょうから、そこを取りかかりに音を出す練習をします。  
隙間を狭くして息を強く吹くと高い音が出ます。隙間を広めにして息を弱く吹くと低い音が出ます。  
唇を尖らせたりプルプルと振るわせたり、ツツツと息を切ったりすると鳥の聞こええます。

#### きちんと音を共鳴させること

バードホイッスルはなるほど鳥っぽい音ですが、チューチューとネズミが鳴いているようにも聞こえます。リードの音がそのまま聞こえると、ネズミが鳴いているような音になります。  
舌先と前歯のわずかな空間、唇と前歯のわずかな空間にバードホイッスルの音を共鳴させると、鼓膜にびりびり来るような、鳥のような音になります。唇を尖らせたり口の中を動かして、試行錯誤してみてください。舌や唇を使って音を変えるので、おもしろいくらい多彩にいろんな鳥の声を真似ることができます。もとは森の猟師が鳥や獣たちの警戒心を解き、おびき寄せるために吹く仕事道具でした。

#### 注意事項

(注1) 素材は合成樹脂と金属です。8歳以下のお子さまの手の届かないところに保管。飲みこむと危険です。あなたも口の中に入れてたまま、うたた寝などしないように。  
(注2) 口の中に入れる物ですから、使い終わったらよく水洗いして乾かします。もし買ったときに入ってたビニル袋に入れて保管するならば、よくよく乾かしてから入れて保管します。（湿ったままビニル袋に入れて長く放置すると.....多分カビが生えます。）

### ○バードホイッスルで鳥寄せ

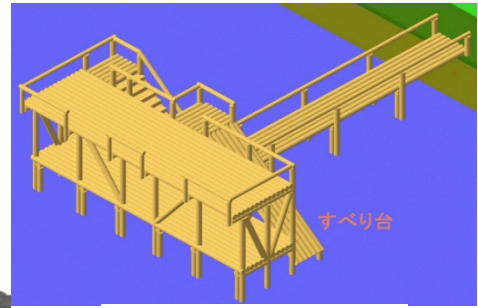
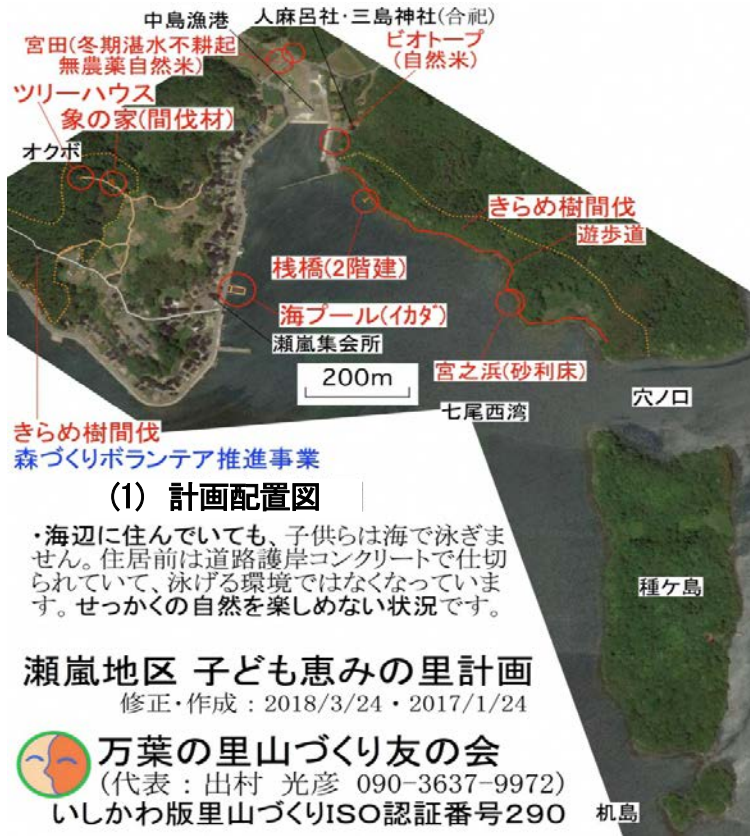
バードホイッスルを鳴らして、きらめ樹間伐（皮むき上げ）をしていると緑色の鳥（ウグイス）が近寄ってきて、辺りを探していた。肺の鍛錬にもなりそう。

### (4)「きらめ樹伐」で子ども恵みの里づくり計画

- ・皮をむき上げた所は虫が付かず腐りません。3年ほど放置すれば重量が半減し、用材として容易に安全に伐倒できます。
- ・きらめ樹材を利用して、栈橋や海プールやツリーハウスや象の家などを作ろうと思っています。里山の恵みを取り戻し、豊かな自然を残しましょう。
- ・災害から地域を守り、里海も豊かにする「きらめ樹間伐」にご協力ください。



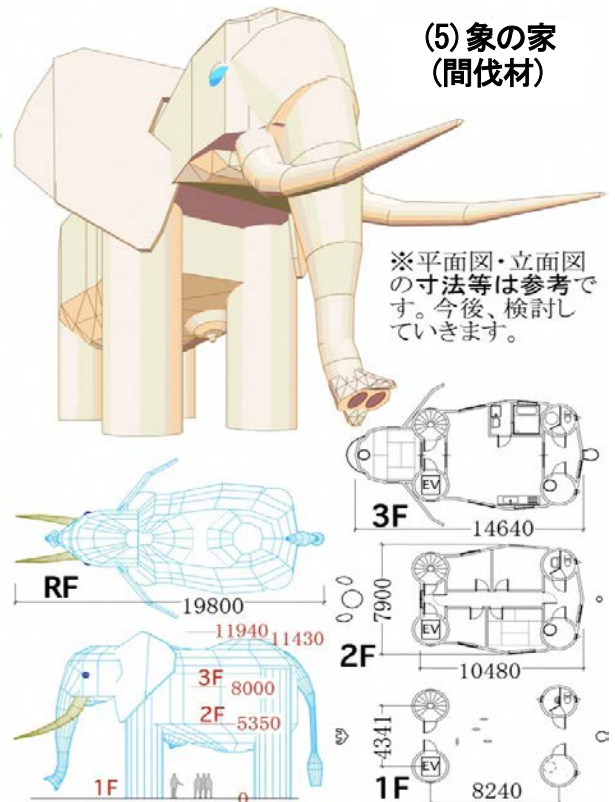
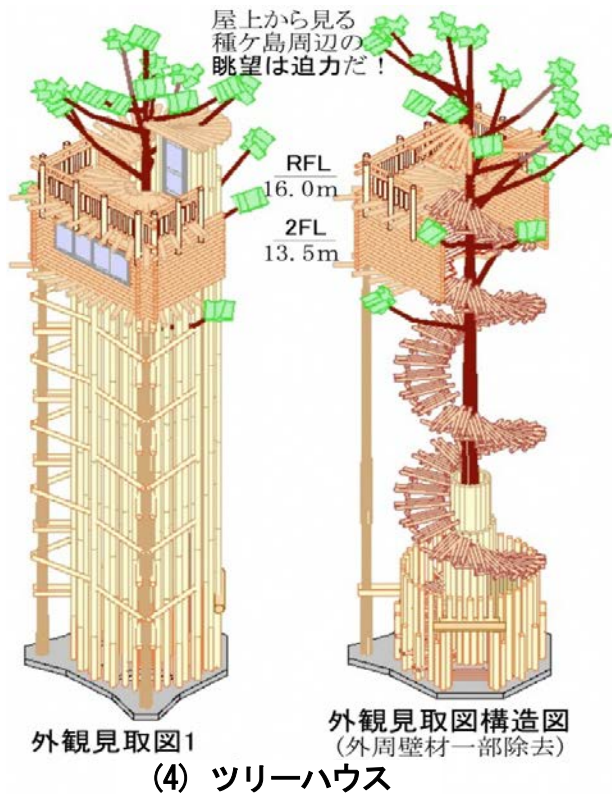
## 2. 子ども恵みの里づくり計画



(2) 栈橋 (2階建)



(3) 海プール(ｲｶﾀ)  
(組立式、夏季以外は取り外し)



(5) 象の家 (間伐材)



## B 自然米栽培と耕作放棄地利用で田んぼの生きもの保全

### 1. 概要・活動状況

#### (1) 田んぼの状態

- ・田んぼのほとんどが耕地整理されて、給水と排水路が別になっています。メダカ等は排水路に入ると田んぼに戻れません。
- ・稲の根張りを良くするため、7月頃、田んぼの水を排水します。
- ・ほとんどの田んぼで除草剤や農薬が使われています。ミミズやミジンコやトンボ、ホタルの幼虫等が生育しにくく、見かけることが少なくなりました。
- ・田んぼや水路等は生きもののワンダーランドではなくなっています。

#### (2) 不耕起栽培でヨシ原田んぼを水田に！

- ・耕作放棄田のヨシを刈り取り、水を張っておき、田んぼ表面を柔らかくします。そのまま耕さずに、田植えをします。ヨシを抑えて、稲が育ちます。
- ・耕作放棄田を借り受けて、水を張り、水生生物等を育ててみませんか？
- ・安全で生きものにやさしいお米づくりを、運動がてら、やってみませんか？



耕作放棄田のヨシ原状態

ヨシを刈り取り、水を張る

田植え機で苗を植える

稲が生育している状況

#### (3) 自然栽培（不耕起、無除草剤、無農薬、無化学肥料）で生きものにやさしい米づくり

- ・稲刈り後も田んぼに水を張る（冬季湛水）と、糸ミミズ、タニシ等が生育します。草の種等も浮き上がり、草の生育を抑えます。
- ・耕耘しません。ミミズ等の土壌生物が耕してくれます。
- ・土壌生物が嫌がるので、除草剤、化学肥料は使いません。土壌生物、水生生物等の糞や死骸等が天然の肥料になります。
- ・農薬を使いません。自然の天敵に任せます。少し、虫食いの米もありますが、無農薬の証です。トンボのヤゴ等にやさしい稲作を行います。
- ・畦草は15cm以上の高刈りにして、天敵のクモやテントウムシ等の住処として残します。高刈りしても、1ヶ月後の草の伸びはそれほど変わりません。



宮田の鳥の島（田植後）

鳥の島にカモが抱卵中

カモの卵

ザリガニ捕獲（煮干し餌）

ドジョウやメダカも入っている

- ・ザリガニは、増えすぎると稲の苗を切ってしまいます。ホタルの幼虫やトンボのヤゴを食べてしまう。駆除して減らしたいと思っている。ザリガニは美味しいらしいです。（寄生虫がいるので10分間煮沸必要）。



#### (4) 自然米発芽玄米を食べて癌、便秘等を予防（低温殺菌牛乳もおすすめ）

- ・私は自然米を、ときどき、発芽玄米にして味わっています。玄米等の種子は発芽毒を有しています。食べ過ぎると体調が悪くなる人がいます。発芽させると、その毒は少なくなるようです。
- ・玄米には体の毒素を排出する働きがあるそうです。同時にカルシウム等も一緒に排出してしまうようです。玄米と合わせてヨーグルトや野菜等、バランスのよい摂取を心がけています。
- ・高温殺菌牛乳はタンパク質が変質して癌になりやすいようです。65℃以下30分殺菌の低温殺菌牛乳がよいと思います。我が家はこの牛乳を常飲し、消費期限を過ぎたらカスピ海ヨーグルトにしています。
- ・高温乾燥させた玄米は発芽しにくいようです。天日干しの玄米は発芽します。水30℃に13時間ほど漬けておくと、胚部分が少し膨らみます。これで発芽状態です。乾燥すると発芽毒が復活してしまいます。
- ・別に無農薬米でなくても、白米食でも長生きしていると言って、自然米に批判的な人もいます。でも、生きものにやさしい米づくりは長生きのためだけでなく、生物多様性維持、環境保全、海の生物にも好ましいといえます。
- ・草取りが遅れ、田植えが遅れてしまいました。
- ・箱苗は適期を過ぎるとストレスが溜まり、成育が悪くなり、草に負けてしまいます。
- ・分けつも悪くなり、収量が昨年より少ないです。



## 2. 今後の計画

### (1) 水生生物等のための溜め水溝づくり

### (2) 耕作放棄田を活用してトキを呼び込む

- ・耕作放棄田に水を張り、タニシ、ドジョウ等を放し、増やしたいです。
- ・できれば、無償で一般の方に借り受けいただき、不耕起自然米を栽培いただき、生きものにやさしい田んぼを増やしていきたい。
- ・子供らが生きものと遊び、稲づくりを手伝い、自然と親しめる環境づくりを推進したいと思う。
- ・その活動が広がり、新潟佐渡からトキが飛来するのを期待して励みます。



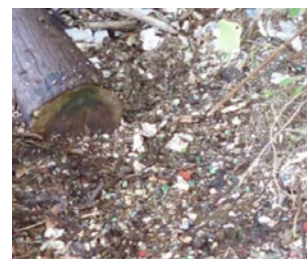
海岸プラスチックごみ等の状況

## C 海岸プラスチックごみ等の清掃と遊歩道整備

### 1. 概要・活動状況

#### (1) 海岸プラスチックごみ等の状態

- ・海岸プラスチックごみ等は潮流の加減で特定の場所に集まってきます。ごみを排出した海域や河川から遠い所に流れ着いて集積するようです。瀬嵐地区の宮之浜周辺や種ヶ島・机島周辺等にも多く集積しています。
- ・十数年前までは、七尾市からの補助を受けて、七尾西湾漁業組合が主体となって海岸清掃を行っていました。
- ・プラスチックゴミ等が劣化して、細分化が進み、回収困難な状態になっているものが多く堆積しています。
- ・海に浮遊するマイクロプラスチックが世界的に問題になっています。魚介類が食べ、人間をも害するようになるおそれがあります。



細分化して堆積 H28.10



絡み合う漁網ロープ



## (2) 海岸プラスチックごみ等の清掃活動の実態

・2016年10月から、年に1回ですが干潮時、瀬嵐地区の漁業関係者および一般有志で海岸清掃を実施しています。中島漁港に分別集積した海岸ごみは七尾市にて無償で収集処分していただいています。



宮之浜の清掃活動状況 1820.10.14

・大半が瀬嵐地区以外から排出されたごみを集積地区だけで清掃するのは理不尽だという意見があり、七尾市に清掃を要望しています。

## (3) 森林環境税に里海環境税等を付加して対策を！

・このままでは、ごみの除去は進みません。能登の里海として誇ることができない状況です。

・漁業組合、ボランティア団体等に自治体から補助を出して海岸清掃を推進していただきたいと思っています。財源確保が難しいなら、森林環境税に里海環境税等を付加していただければよいのではと思います。



船に積み込み状況

## 2. 今後の計画

### (1) 近隣地区の海岸も調査

### (2) 県、市の広報等にてボランティア参加呼びかけ

- ・県、市の広報、ネット等にボランティア参加呼びかけを記載、新聞社等に取材を依頼しようと思っています。
- ・海岸ごみの状況等を広く知っていただき、ボランティア活動を通して里海に親しんでいただければと思います。



海岸ごみの分別 清掃状況 1820.10.15 中島漁港

### (3) 海岸遊歩道の整備

- ・瀬嵐地区住居群の前は海浜道路を新設して、石積みからコンクリート護岸になってしまいました。幸い、対岸の海岸は昔のままに残っています。
- ・しかし、その海岸通路は、山の手入れ、稲作等をしなくなり、荒廃しています。通行困難な状況となっています。
- ・容易に通れるよう、できればリヤカー等が通行できるようになれば、船なしでもその海岸ごみの清掃ができるようになります。海岸散策等、里海と親しめるようになります。
- ・なお、海岸遊歩道等の整備として、H31 七尾市宝くじ社会貢献コミュニティ助成事業に瀬嵐・里海里山づくりの会にて応募しています。

氏名	出村光彦	所属	万葉の里山づくり友の会
住所	〒929-2218 石川県七尾市中島町瀬嵐ク部 45		
E-mail	demura@po3.nsknet.or.jp	電話・FAX	0767-66-1556